

2016年度 大学入試を振り返る

本誌4・5月号では、2016年度入試の速報として大学入試センター試験の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

この度、全国の高等学校の先生方にご協力いただき、約192万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。また、各大学からも最終的な入試結果資料を送付いただいている。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2016年度入試を総括する。なお、個々の大学の入試結果については31ページ以降に掲載しているので是非ご活用いただきたい。

Part 1 国公立大学

2016年度入試結果全体概況

初めに今春入試の受験環境を振り返っておこう。この春の18歳人口は119万人（前年比99%）で、昨年から1万人近く減少した。一方センター試験の志願者数は563,768人（前年比101%）と前年並みである。志願者数の現卒別の内訳をみると、既卒生は減少しているが、現役生は約7千人増加（前年比102%）しており、18歳人口の減少とは対照的な動きとなった。背景としては、私立大のセンター試験利用が増えたことや、国公立大の推薦・AO入試でセンター試験の成績利用が拡大していることが考えられる。

今春は英語、国語、地理歴史・公民が新課程に対応した試験となったが、センター試験では出題傾向が大きく変わることはなかった。国語、歴史科目など文系科目で平均点が上がり、物理・化学といった理系生の選択が多い科目が難化したため、河合塾の推定するセンター試験7科目型平均点は、文系型で548点（前年+5点）、理系型で562点（前年-5点）となった。

では、国公立大の入試結果概況をみておこう【図表1】。国

公立大前期日程の志願者数は258,193人（前年比100%）で大きな変化はなかった。一方、国立大の後期日程で減少が目立つが、これは難関大や医学科で後期日程廃止の動きが続いているためである。今春の国公立大の前期日程志願者に対する後期志願者数の割合は72.1%で、国公立大志願者の3割近くは後期日程に出願しなかったことになる。

東京大推薦入試、京都大特色入試新規実施の余波

次に国立難関10大学の状況をみていこう。今春入試で注目されたのは、東京大の推薦入試、京都大の特色入試の新規実施と一般入試への影響だろう。【図表2】は東京大推薦入試、京都大特色入試の結果をまとめたものである。両大学とも出願条件にとどまらず選抜基準もハイレベルであったようで、京都大（薬）で合格者が出なかったのをはじめ、合格者数が募集人員を満たさなかった学部・学科が散見された。

【図表3】は国立難関10大学の一般入試の状況をまとめたものである。東京大は推薦入試を実施するにあたり、理科3類以外で一括募集していた後期日程を廃止した。これによ

【図表1】国公立大入試結果 全体概況

	募集人員			志願者数 (A)				合格者数 (B)					倍率 (A/B)				
	15	16	16/15	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16	
国立	前期	65,133	64,877	100%	201,628	198,849	198,011	99%	100%	72,169	72,421	71,986	100%	99%	2.8	2.7	2.7
	後期	15,789	15,554	99%	149,596	146,128	141,261	98%	97%	19,741	19,811	19,503	100%	98%	7.5	7.4	7.2
	全体	80,922	80,431	99%	351,224	344,977	339,272	98%	98%	91,910	92,232	91,489	100%	99%	3.8	3.7	3.7
公立	前期	14,987	15,057	100%	61,275	60,016	60,182	98%	100%	19,190	19,536	19,477	102%	100%	3.2	3.1	3.1
	中期	1,958	1,958	100%	26,732	26,278	27,333	98%	104%	4,498	4,755	4,700	106%	99%	5.9	5.5	5.8
	後期	3,714	3,697	100%	45,180	43,258	44,852	96%	104%	5,063	5,246	5,113	104%	97%	8.9	8.2	8.8
	全体	20,659	20,712	100%	133,187	129,552	132,367	97%	102%	28,751	29,537	29,290	103%	99%	4.6	4.4	4.5
国公立	前期	80,120	79,934	100%	262,903	258,865	258,193	98%	100%	91,359	91,957	91,463	101%	99%	2.9	2.8	2.8
	中期	1,958	1,958	100%	26,732	26,278	27,333	98%	104%	4,498	4,755	4,700	106%	99%	5.9	5.5	5.8
	後期	19,503	19,251	99%	194,776	189,386	186,113	97%	98%	24,804	25,057	24,616	101%	98%	7.8	7.5	7.5
	全体	101,581	101,143	100%	484,411	474,529	471,639	98%	99%	120,661	121,769	120,779	101%	99%	4.0	3.9	3.9

※ 5月27日現在 河合塾集計

※ 合格者数と倍率は、合格者数が未判明の室蘭工業大を含まず集計

【図表2】 東京大推薦入試・京大特色入試 入試結果

大学	学部・学科	募集人員			1次合格者数		合格者数		
		15	16	16/15	15	16	16/15	15	16
東京	法	10名程度			24	24		14	
	経済	10名程度			7	7		4	
	文	10名程度			10	10		3	
	教育	5名程度			9	6		4	
	教養	5名程度			17	11		2	
	工	30名程度			47	44		24	
	理	10名程度			32	24		11	
	農	10名程度			12	12		9	
	薬	5名程度			4	4		3	
	医	3名程度			9	5		2	
	健康総合科学	2名程度			2	2		1	
計	100名程度			173	149		77		
京都	総合人間	5名			29	29		5	
	文	10名			40	9		7	
	教育	6名			25	12		5	
	法	20名			324	-		22	
	経済	25名			77	61		25	
	理	5名			59	59		5	
	医	5名			5	5		1	
	人間-看護学	10名			13	13		1	
	人間-理学療法	3名			7	7		2	
	人間-作業療法	3名			2	2		2	
	薬	3名			2	2		0	
	地球工	3名			0	0		0	
	電気電子工	5名			12	-		3	
	情報	2名			1	1		1	
	工業化学	若干名			0	0		0	
農	食料・環境経済	3名			20	10		3	
計	88名			292	210		60		

※大学公表資料より

り、昨年の模試段階では、北海道大、東北大、一橋大、大阪大、九州大など旧帝大のほか、千葉大や横浜国立大といった近隣大学の後期日程で大きく志望者が増加していた。しかし、「入試結果調査データ」を元に東京大前期受験者の後期併願先を昨今と比較すると、北海道大、一橋大、横浜国立大などへの流入が見られるが、どれも予想されたほど大幅には増加しておらず、後期の出願を諦めた受験生が増えたのがわかる【図表4】。東京工業大（第7類-後）は、センター・リサーチ時点で志望者前年比157%と増加していたが、実際の志望者は前年比105%に留まっており、東京大からの流入が警戒されたようだ。

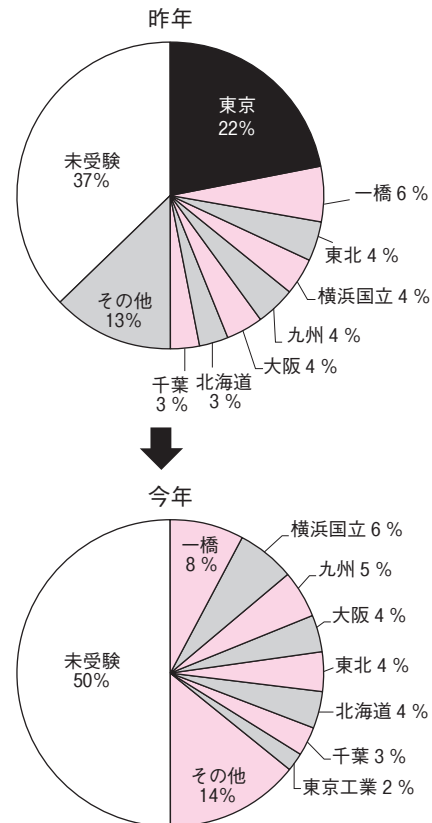
後期日程を廃止した東京大と反対に、京都大は特色入試の一環として法学部で後期日程を復活させた。募集人員20名に対して志望者は324人が集まり、志願倍率は16.2倍となった。法学部では第1次選考の合格者を募集人員の10.0倍程度を目安として決定するとしていたが、実際には志願者全員が1次

【図表3】 国立難関10大学入試結果

大学	前期										後期												
	募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率(A/B)		募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率(A/B)		
	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16	
北海道	1,939	1,939	100%	5,705	5,738	101%	2,092	2,079	99%	2.7	2.8	491	487	99%	4,129	4,181	101%	551	550	100%	7.5	7.6	
東北	1,865	1,849	99%	4,908	4,900	100%	1,999	1,942	97%	2.5	2.5	93	88	95%	1,480	1,269	86%	125	106	85%	11.8	12.0	
東京	2,963	2,960	100%	9,444	9,278	98%	3,008	3,031	101%	3.1	3.1	100	-	-	2,940	-	-	100	-	-	-	29.4	-
東京工業	903	886	98%	3,803	3,892	102%	941	932	99%	4.0	4.2	20	35	175%	483	509	105%	24	40	167%	20.1	12.7	
一橋	840	840	100%	2,748	2,740	100%	869	870	100%	3.2	3.1	80	80	100%	1,373	1,432	104%	90	84	93%	15.3	17.0	
名古屋	1,728	1,732	100%	4,914	4,719	96%	1,856	1,842	99%	2.6	2.6	5	5	100%	65	78	120%	6	5	83%	10.8	15.6	
京都	2,846	2,738	96%	8,041	8,029	100%	2,907	2,830	97%	2.8	2.8	-	20	-	-	324	-	-	22	-	-	-	14.7
大阪	2,834	2,829	100%	7,263	7,337	101%	2,996	2,995	100%	2.4	2.4	346	351	101%	3,064	3,097	101%	397	410	103%	7.7	7.6	
神戸	1,874	1,869	100%	5,587	5,776	103%	2,021	2,027	100%	2.8	2.8	443	438	99%	4,399	4,113	93%	544	545	100%	8.1	7.5	
九州	2,042	2,045	100%	4,938	5,095	103%	2,195	2,215	101%	2.2	2.3	318	315	99%	2,714	2,644	97%	380	366	96%	7.1	7.2	
全体	19,834	19,687	99%	57,351	57,504	100%	20,884	20,763	99%	2.7	2.8	1,896	1,819	96%	20,647	17,647	85%	2,217	2,128	96%	9.3	8.3	

※ 5月27日現在 河合塾集計

【図表4】 東京大（前期）受験者の後期併願先

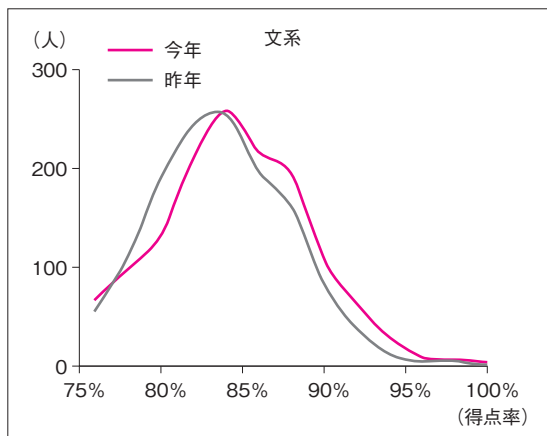


※河合塾入試結果調査データより

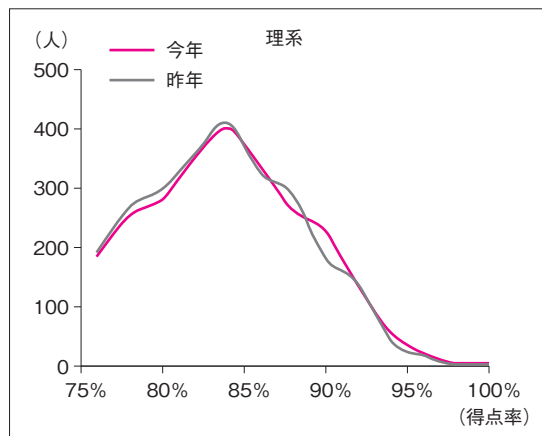
選考に合格した。ただし受験者数は、前期入学手続き者が抜けたため半数以下の130人となり、実質倍率は5.9倍だった。なお、「入試結果調査データ」によれば、前期日程併願先は東京大文系類、京都大文系学部が占めている。注目された難易度は、センター試験のボーダー得点率で88%となった。法学系後期日程の中では一橋大(得点率91%)に次ぐ難易度となった。

京都大では特色入試の実施に伴い、すべての学部で一般入試の募集人員を減らしたが、大学全体の志願者は前年比100%と横ばいだった。内訳をみると、文系学部で志願者が増加した一方、理系学部では薬学部を除いて減少しており、典型的な文高理低を示している。【図表5】は京都大受験者のセンター得点分布を文系と理系に分けて表したものだ。理系は志願者が減少したものの、上位層に変化はない。文系では、グ

【図表5】京大（前期）受験者のセンター得点分布



※河合塾入試結果調査データより



ラフが全体的に右にシフトしている。ボーダーも法、経済などを中心に、8区分中5区分で得点率がアップ、2次ランクも4区分でアップした。

新設、改組学部志願動向

今春は国立大の学部新設・改組が目立ったが、中でも「国際」や「地域」と名のつく学部の新設が相次いだ。【図表6】はこれらの学部の入試結果だ。

千葉大は卒業までに1回以上の留学経験を必須とする国際教養学部を新設した。志願倍率は3.5倍で、文学部が例年3倍前後の倍率であることを考えると順調に志願者を集めたと言える。同大学の文学部には既に国際言語文化学コースがあるが、こちらは志願者前年比65%と新設学部志願者を取られた形だ。ボーダー得点率は73~75%でどちらも大差なく、2次ランクは国際教養が3ランク（偏差値60.0）、文-国際言語文化学が昨年より1ランクダウンして4ランク（偏差値57.5）になった。国際教養の併願先は、後期日程では茨城大（人文）や千葉大（法政経）など、私立大ではMARCHの国際系学部を受験した受験生が多い。

九州地区では佐賀大（芸術地域デザイン）、長崎県立大（地域創造）、宮崎大（地域資源創成）と、「地域」を冠する学部が3つ新設されたが、それぞれ学部系統が異なる。入試結果からは人気に差があるのわかる。

こうした比較的新しい分野の新設学部の動向は読みにくい。学部横断型のプログラム、文理融合型の教育を行うとこ

ろも多く、名前だけでは学べる学問分野が想像しにくいケースも少なくない。卒業後の進路や独自のカリキュラムを、どれだけ受験生に周知させられるかが人気の鍵を握りそうだ。

国公立大の学部新設・改組は来年度以降も続きそうだ。近隣大学への影響も含め、動向を注視したい。

系統別志願動向 「文高理低」が鮮明に

ここからは学部系統別の入試結果をみていこう【図表7】。

今春入試では文系系統が軒並み志願者を増やした一方、理系系統は農学系を除いて志願者減となった。新課程に移行した昨春から、センター試験の理教科目負担増や就職状況の改善により、「文高理低」へ揺り戻しがみてとれたが、今春はこの動向がより鮮明に表れている。センター試験で理系型の平均点がダウンしたことも影響した。

「文・人文」学系、「社会・国際」学系は前述の通り新設学部・学科の多い系統だが、募集増の割合を上回る志願者を集めた。「法・政治」学系は2年連続の大幅増となったが、今春特に志願者が増加しているのはボーダー得点率80%未満の中堅大学である。教育の「総合科学課程」で大幅に減少したのは、教育学部の見直しにより総合科学課程を廃止する大学が多かったためだ。理系系統では唯一、「農」学系で志願者が微増したが、募集人員が増加していることを考えると、堅調とは言い難い。今春入試では、今まで人気を集めてきた「医・歯・薬・保健」学系も志願者を減らしており、近年の医療系人気はひと段落したと言えるだろう。

なお、「医療技術」では激しい隔年現象を起こしている大学が多い。倍率を確認する際は、周辺大学の入試結果を含め、数年分確認する必要がある。

【図表6】「国際」「地域」系、主な新設学部入試結果

大学	学部	募集人員	志願者数(A)	合格者数(B)	倍率(A/B)
宇都宮	地域デザイン科学	93	309	113	2.7
千葉	国際教養	90	369	104	3.5
福井	国際地域	35	100	45	2.2
静岡	地域創造学環（教育プログラム）	25	212	29	7.3
愛媛	社会共創	111	452	128	3.5
佐賀	芸術地域デザイン	58	212	67	3.2
長崎県立	国際社会	30	72	32	2.3
長崎県立	地域創造	125	368	170	2.2
宮崎	地域資源創成	55	81	60	1.4

※5月27日現在 河合塾集計

※数値は前期日程

【図表7】 国公立大（前期）学部系統別入試結果

系統	募集人員			志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16	16/15	15	16
文・人文	7,699	7,869	102%	24,528	25,726	105%	9,270	9,471	102%	2.6	2.7
社会・国際	2,621	2,760	105%	9,154	9,935	109%	3,376	3,480	103%	2.7	2.9
法・政治	4,272	4,289	100%	12,496	13,123	105%	5,057	5,097	101%	2.5	2.6
経済・経営・商	7,985	8,082	101%	24,799	26,243	106%	9,962	10,036	101%	2.5	2.6
教育－教員養成課程	7,292	7,275	100%	19,572	20,188	103%	8,116	8,073	99%	2.4	2.5
教育－総合科学課程	2,063	1,424	69%	6,374	3,992	63%	2,359	1,606	68%	2.7	2.5
理	5,166	5,225	101%	15,578	15,400	99%	5,865	5,866	100%	2.7	2.6
工	22,521	22,429	100%	69,465	67,728	97%	25,019	24,960	100%	2.7	2.7
農	5,288	5,436	103%	17,142	17,184	100%	5,997	6,125	102%	2.9	2.8
医・歯・薬・保健	10,508	10,521	100%	40,963	40,012	98%	11,327	11,449	101%	3.6	3.5
医	3,648	3,661	100%	18,999	18,342	97%	3,770	3,791	101%	5.0	4.8
歯	450	453	101%	2,022	1,793	89%	482	501	104%	4.2	3.6
薬	763	750	98%	2,886	2,836	98%	852	849	100%	3.4	3.3
看護	3,872	3,869	100%	11,557	11,593	100%	4,252	4,295	101%	2.7	2.7
医療技術・他	1,775	1,788	101%	5,499	5,448	99%	1,971	2,013	102%	2.8	2.7
生活科学	741	771	104%	2,558	2,681	105%	837	853	102%	3.1	3.1
芸術・スポーツ科学	1,618	1,656	102%	7,790	7,941	102%	1,787	1,808	101%	4.4	4.4
総合・環境・情報・人間	2,346	2,197	94%	8,446	8,040	95%	2,985	2,639	88%	2.8	3.0
全体	80,120	79,934	100%	258,865	258,193	100%	91,957	91,463	99%	2.8	2.8

※ 5月27日現在 河合塾集計

※ 学部系統の分類は河合塾による

※ 合格者数と倍率は、合格者数が未判明の室蘭工業大を含まず集計

2017年度入試のトピックス

来年度も国立大を中心に、学部・学科の新設・再編が活発に行われそうだ。その動きは大きく以下のように分けられる。

- ・教育学部総合科学課程の廃止・縮小
- ・理工系学部の再編、文学部より募集人員のシフト
- ・国際系の学部新設、留学プログラムの充実
- ・地域活性化を担う人材育成のための学部新設

文部科学省は現在国立大学改革を進めており、今年はその第3期中期目標期間の初年度にあたる。3月に公表された各大学の第3期中期目標・計画をみても、今後しばらくは上記の再編の流れが続いていく模様だ。2017年度は6大学で教育学部の総合科学課程を廃止し教員養成課程に一本化するほか、2大学で総合科学課程の入学定員を縮小することが明らかになっている。第1回全統マーク模試では、系統全体で志望者前年比80%と減少している。**横浜国立大**は教育人間科学部の人間文化課程と理工学部の建築都市・環境系学科を元に、文理融合型の都市科学部を新設する。ほかにも経済、経営学部も1学部1学科の体制に改組するなど、全学的な改編が予定されている。**名古屋大**は工学部を5学科13コースから7学科に改組するほか、情報文化学部を情報学部へ発展改組する。工学部は大学院進学を基本と考えて、2年次からのコース配属を廃止し、学部・大学院一体のシームレスな教育を狙う。工学部内にあった情報工学コースは実質的に情報学部のコンピュータ科学科に引き継がれることになる。

来春入試も英語外部試験を利用する大学やAO・推薦入試の新規実施、見直しを行う大学が多い。大学入学者選抜改革の一方策として例示されていることもあり、ますます拡大の方向にある。**鹿児島大**では推薦入試Ⅱと一般入試において、外国語を課しているすべての学部・学科で英語外部試験の利用が可能になる。センター試験の外国語はこれまでと変わら

ず受験しなくてはならないが、指定された英語外部試験で一定スコア基準を満たしていれば、満点とみなすという優遇措置だ。英検をはじめ8つの試験が指定されており、英検であれば準1級以上が基準スコアになる。推薦・AO入試で注目されるのは**大阪大**の世界適塾入試だ。学部ごとに推薦もしくはAO入試で実施され、全学部センター試験の受験が必須となっている。また、世界適塾入試導入に伴い、後期日程が廃止される。難関大志望者の後期日程出願先はさらに絞られることになる。

このほかにも、入試科目の変更、学部・学科の新設・再編や募集区分の変更などを予定している大学がある。本誌18ページ以降に一部をまとめているほか、河合塾の入試情報サイトKei-Netでも最新の情報を掲載しているので、是非ご利用いただきたい。

Part 2 私立大学

ここからは私立大の入試状況をみていく。本誌4・5月号では、全国主要197大学の一般入試一期の志願状況を速報としてお伝えした。今号では、志願者・受験者・合格者数の集計が完了した全国535大学の入試結果をもとにレポートする。

志願者数は前年を上回るも 合格者数は前年並み

今春行われた2016年度の私立大一般入試全体の志願者数(延べ数:以降すべて同じ)は、3,140,841人(前年比104%)で前年を上回った【図表8】。受験生にとって出願しやすい仕組み(一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、同時に複数の方式に出願すると受験料を割引くなど)を導入する大学の拡大が総志願者数の増加につながったようだ。今春入試では**日本大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大**の5大学で志願者数10万人を超えた。これほど多くの大学で志願者数10万人を超えたのはこの30年間で初めてのことである。

入試方式別の内訳では、一般方式が2,143,146人(前年比104%)、センター方式が997,695人(同103%)と、センター方式の増加率がやや低めとなった。新課程への移行後、センター試験の理科の科目負担が増えたことにより、センター方式を敬遠する動きがみられる。一方、河合塾の入試結果調査データによると、私立大一般方式における一人あたりの受験校数は3.49→3.51校と増えている。

次に合格者数に注目すると、私立大全体では前年比101%と前年並みにとどまった。私立大では定員超過を抑制するため、大学全体または学部の入学定員に対して基準の充足率を超えると補助金が不交付となる制度がある。この補助金不交付のルールが2016年度から段階的に厳しくなっている。特に

定員規模の大きい大学で基準が厳しくなるため、今春は都市部の大規模大を中心に合格者を絞り込む動きが多くみられた【図表9】。

難関大の志願状況

続いて難関大の動向についてみていく。

大学グループごとの志願者数をみると、首都圏では「早慶上理」は前年比101%、「MARCH」は同103%、「日東駒専」は同110%、近畿圏では「関関同立」は前年比101%、「産近甲龍」は同106%と、後のグループほど増加率が高くなっており、受験生がより手堅い出願を選択した様子がうかがえる。

「早慶上理」では**早稲田大**は9年ぶり、**慶應義塾大**は2年連続で志願者が増加した。大学発表資料によると、慶應義塾大では地元関東と東海出身の志願者が増加している。一方、**上智大**は5年ぶりの志願者減。2015年度入試から導入したTEAP利用型入試の志願者が半減した影響が大きく、TEAP利用型入試では3分の2の募集区分でボーダーランクがダウンした。**東京理科大**は大学全体の志願者数は前年並みだが、埼玉・久喜キャンパスから東京・神楽坂キャンパスへ移転した経営学部の志願者数は3,175→5,135人(前年比162%)の大幅増となった。【図表10】は受験者の出身地と学力分布を昨今と比較したものの。東京だけでなく、通学圏内となった千葉、神奈川の志願者が増加している。ビジネスエコノミクス学科が加わったこともあり、学力分布の山がひときり大きくなっただけでなく、上位層が増加したことが分かる。既存の経営学科のB方式ではボーダーランクが4ランク(偏差値57.5)から3ランク(偏差値60.0)へアップした。

「関関同立」では**立命館大**で3年連続の志願者増、**同志社大・関西大**は前年並み、**関西学院大**は1割近く志願者を減らすな

【図表8】私立大入試結果 全体概況

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)			
	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16	
全体	2,999,923	3,023,035	3,140,841	101%	104%	898,731	932,656	938,458	104%	101%	3.3	3.2	3.3	
方式別	一般	2,011,474	2,051,107	2,143,146	102%	104%	552,526	573,032	579,852	104%	101%	3.6	3.6	3.7
	センター	988,449	971,928	997,695	98%	103%	346,205	359,624	358,606	104%	100%	2.9	2.7	2.8
期別	一期	2,788,407	2,809,185	2,909,449	101%	104%	834,092	868,178	877,627	104%	101%	3.3	3.2	3.3
	二期	211,516	213,850	231,392	101%	108%	64,639	64,478	60,831	100%	94%	3.3	3.3	3.8
主な大学グループ	早慶上理	229,869	230,694	231,988	100%	101%	50,474	50,582	49,390	100%	98%	4.6	4.6	4.7
	MARCH	392,872	395,595	406,294	101%	103%	82,092	84,375	86,056	103%	102%	4.8	4.7	4.7
	日東駒専	226,268	240,818	264,728	106%	110%	65,616	73,582	74,762	112%	102%	3.4	3.3	3.5
	関関同立	267,233	261,478	265,291	98%	101%	78,241	80,531	82,344	103%	102%	3.4	3.2	3.2
	産近甲龍	201,171	209,024	220,784	104%	106%	42,567	47,971	48,263	113%	101%	4.7	4.4	4.6

※5月27日現在 河合塾集計(535大学判明分)

※2014~16年度の志願者数・合格者数公表大学を集計(合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※大学公表値には一部推薦入試等の数字が含まれている場合がある 【図表9】以降も同条件で作成

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

※大学グループ

早慶上理:早稲田・慶應義塾・上智・東京理科

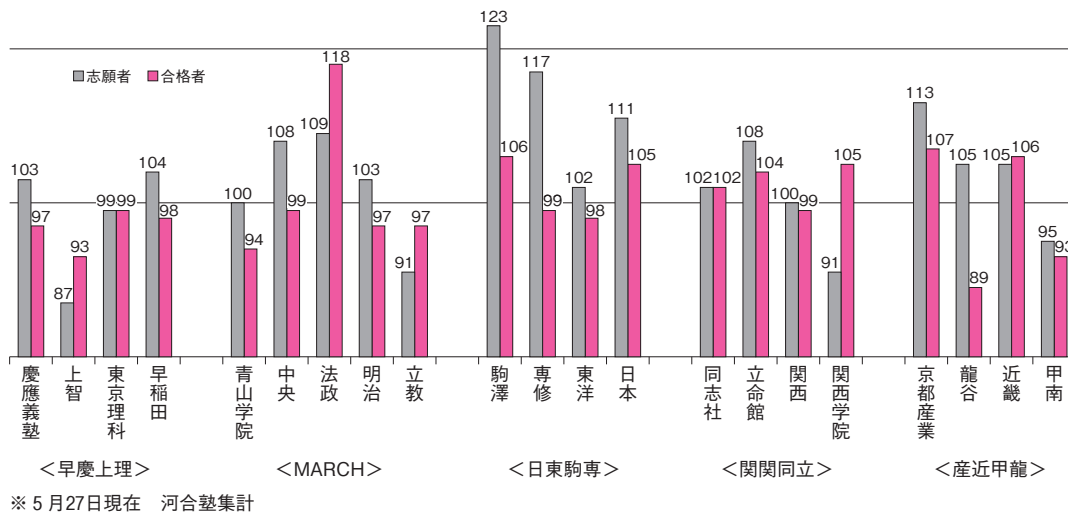
MARCH:明治・青山学院・立教・中央・法政

日東駒専:日本・東洋・駒澤・専修

関関同立:関西・関西学院・同志社・立命館

産近甲龍:京都産業・近畿・甲南・龍谷

【図表9】 主な私立大の志願者数・合格者数の変化



と異なる動きを示した。立命館大は産業社会、国際関係、政策科学といった社会科学系の学部で志願者を集めたほか、文学部人文学科心理学域を学部昇格して新設した総合心理学部の志願者が1,764→4,799人と3倍近く増えた影響が大きい。総合心理学部では学部個別配点方式理系を除くすべての方式でボーダー得点率が4~5%、ボーダーランクが1ランクアップし、難化した。

文高理低の傾向がより鮮明に

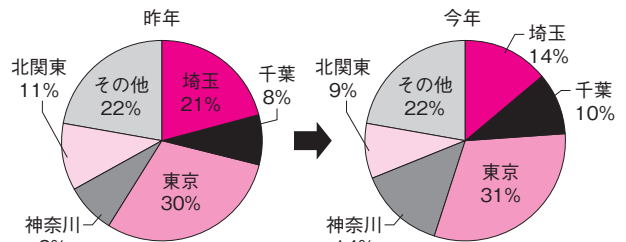
【図表11】は学部系統別の入試結果を集計したもの。学部系統別の状況は4・5月号でお伝えしたとおり、国立大と同様、今春は文高理低の傾向がより鮮明となった。

文系は人文学系、社会科学系ともに志願者は増加しており、特に「法・政治」学系での志願者増が目立つ。

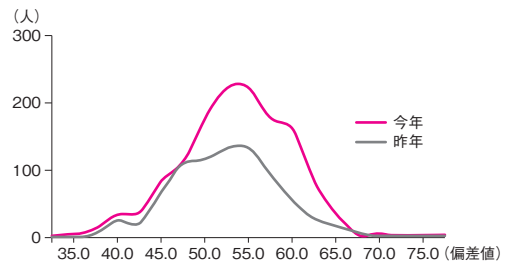
理系では「理」「農」学系で志願者が減少した。「工」学系では前年比104%と増加しているが、これは千葉工業大での志願者増加の影響が大きい。千葉工業大では学部改組と複数

【図表10】 東京理科大（経営）の志願状況

●一般方式受験者の出身地区の変化



●一般方式受験者の成績分布



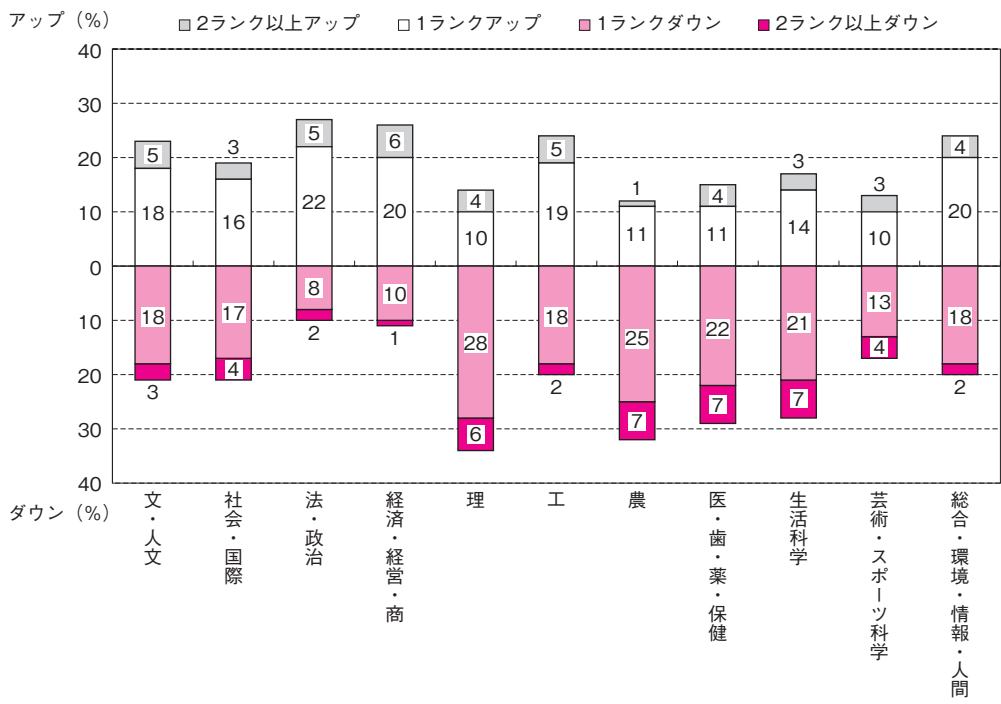
※河合塾入試結果調査データより

【図表11】 私立大学部系統別入試結果

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16	15/14	16/15	14	15	16
文・人文	601,463	598,981	627,279	100%	105%	193,708	203,369	202,262	105%	99%	3.1	2.9	3.1
社会・国際	256,792	257,919	264,001	100%	102%	80,648	84,088	83,038	104%	99%	3.2	3.1	3.2
法・政治	216,581	223,606	246,229	103%	110%	75,975	78,085	77,300	103%	99%	2.9	2.9	3.2
経済・経営・商	541,438	553,699	594,789	102%	107%	166,538	170,131	170,410	102%	100%	3.3	3.3	3.5
理	134,147	128,839	124,724	96%	97%	39,328	41,226	41,933	105%	102%	3.4	3.1	3.0
工	523,810	543,419	563,508	104%	104%	157,271	160,890	164,011	102%	102%	3.3	3.4	3.4
農	104,890	102,140	98,299	97%	96%	25,171	27,526	27,312	109%	99%	4.2	3.7	3.6
医・歯・薬・保健	339,129	336,019	334,169	99%	99%	69,937	75,042	78,775	107%	105%	4.8	4.5	4.2
医	94,771	95,598	97,325	101%	102%	5,100	5,286	5,643	104%	107%	18.6	18.1	17.2
歯	6,779	8,223	8,044	121%	98%	2,570	2,537	2,589	99%	102%	2.6	3.2	3.1
薬	98,677	95,314	86,397	97%	91%	22,647	23,506	24,457	104%	104%	4.4	4.1	3.5
看護	69,951	71,186	76,276	102%	107%	19,278	22,129	23,464	115%	106%	3.6	3.2	3.3
医療技術・他	68,951	65,698	66,127	95%	101%	20,342	21,584	22,622	106%	105%	3.4	3.0	2.9
生活科学	84,481	83,358	80,810	99%	97%	27,581	29,103	28,819	106%	99%	3.1	2.9	2.8
芸術・スポーツ科学	90,766	89,369	91,990	98%	103%	27,057	27,596	29,230	102%	106%	3.4	3.2	3.1
総合・環境・情報・人間	105,973	105,289	115,043	99%	109%	35,217	35,315	35,368	100%	100%	3.0	3.0	3.3
全体	2,999,470	3,022,638	3,140,841	101%	104%	898,431	932,371	938,458	104%	101%	3.3	3.2	3.3

※ 5月27日現在 河合塾集計、学部系統の分類は河合塾による

【図表12】 私立大一般方式ボーダーランク 系統別アップ・ダウン率



※河合塾入試結果調査データより

学部を併願すると受験料が割引される制度により志願者が2万5千人ほど増加した。

医療系では分野により動向が分かれた。今春も多くの学部・学科が新設された「看護」は前年比107%と志願者が増加。一方、「薬」は前年比91%と大きく志願者を減らし、2年連続の減少となった。「医」の志願者数は前年比102%と増加しているものの、新設の東北医科薬科大を除くと前年比99%となり、医学科人気も落ち着きをみせている。なお、今春入試では例年以上に追加合格者を多く出す医学科が散見された。正規合格者数が4,030→4,237人（前年比105%）に対し、追加合格者数は1,045→1,203人（同115%）であった。なかには4月に入ってから繰り上げ合格を発表する大学もあり、受験生にとっては長い入試となったようだ。

【図表12】は私立大一般方式について2016年度のボーダーランクのアップ・ダウン率を系統別に表したものである（系統により募集区分数が大きく異なるため、各系統の募集区分数におけるアップ・ダウン件数の占有率を表示）。文系ではランクアップ、理系ではランクダウンの件数が多いことが分かる。特に、「法・政治」学系では、系統人気に伴い、難関大や中堅大を中心に難化した大学が多くみられた。

2017年度入試のトピックス

2017年度のトピックスの1つは収容定員増の動きである。前述の定員超過抑制への対応策として、収容定員そのものを増やす動きが例年以上に盛んだ。【図表13】は来春入試において収容定員増を予定している大学の一部である。4月に収容定員増の認可申請を行った大学は全国で44大学にも及び、すべて認可されれば7,354名の増員となる。

2つめは入試における英語外部試験活用のさらなる拡大で

【図表13】 都市部大規模大の入学定員増員予定（抜粋）

大学	16年度	17年度	増員数
青山学院	3,902	4,220	+318
東京理科	3,565	3,890	+325
東洋	6,732	7,301	+569
日本	14,760	14,869	+109
立教	4,150	4,604	+454
立命館	7,157	7,629	+472
龍谷	4,539	4,693	+154
近畿	7,050	7,970	+920

※文部科学省資料より

ある。青山学院大（経済、経営）、中央大（文、総合政策、経済）、明治大（経営）、早稲田大（文、文化構想）、関西大（文）などで英語外部試験を活用した入試方式が新規に実施される予定だ。

このほか、来春は6大学の新設に加え、岩手医科大（看護）、国際医療福祉大（医）、東洋大（国際観光、国際、情報連携）、南山大（国際教養）など医療系・国際系を中心に学部・学科の新設が予定されている。

今回は本誌10月号にて、2017年度入試の変更点を交えつつ、最新の入試動向をお伝えする。